

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691900017		
法人名	医療法人 守章会		
事業所名	グループホームリリーハウス		
所在地	徳島県三好郡東みよし町中庄538-1		
自己評価作成日	令和3年7月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風光明媚な立地であり、吉野川に近く、自然豊かである。ユニバーサルデザイン適合証を受け、安全で安心し、快適に利用できる施設である。法人の運営する医療機関と連携を図り、24時間体制での対応ができています。週3回リハビリに通い、必要時には受診している。毎日、リハビリ体操や歩行運動を行い、利用者が自立支援できるように努めている。個々の生活スタイルを尊重しレクリエーション等の参加は無理強いせず、本人様の気持ちを大切にしている。スタッフ一人ひとりが高い志を持ち、利用者様中心の介護を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者の尊厳と自立を尊重し、家庭的な雰囲気の中で穏やかに暮らすことができるよう、支援に取り組んでいる。敷地内の菜園や果樹から野菜や果物を収穫したり、季節感のある大きな壁面飾りを作ったりするなど、利用者が活動的に過ごすことができるよう支援している。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、制限が多いなかでも、地域の地名が入ったかるたで遊び、昔話で盛り上がるなど、日ごろの暮らしに変化を感じることができるよう工夫している。法人が運営する医療機関と連携を図り、急な体調の変化にも対応するなど、利用者や家族等の安心につなげている。また、職員のスキルアップのために、事業所内外での研修等に積極的に参加・取り組むなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務所、各ホールに掲示し、朝礼時に唱和している。全職員で共有し、ケアの向上や日々の実践に繋げている。	事業所では、設立当初から、事業所独自の理念を掲げている。申し送りの際に、理念を唱和しつつ、ユニットごとに“一日の目標”を決めて、終礼時に振り返っている。また、個別の面談時にも、理念について職員間で確認するなどして共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー等で利用者様の希望の日用品や食品等を職員が直接購入している。感染症(コロナ等)の流行下においても、馴染みの美容師に来訪して頂き、訪問理髪をお願いしている。	事業所では、近隣保育所を訪問したり、ボランティアを受け入れたりして、地域との交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においても、地元商店の移動販売の来訪があるなど、交流の継続に努めている。また、地域の自治会に加入し、事業所便りを民生委員や町内会等に送付している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や施設見学に来られた方に、事業所の取り組みや認知症ケアについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を民生委員や地域包括支援センターの職員等の出席を得て開催しているが、コロナ感染症の流行に伴い書面での会議となっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症流行下では、町の担当者と相談し、書面会議を行っている。事業所の現況や利用者状況等を報告書にまとめ、各委員に送付している。管理者は、各委員の意見を集約し、サービスの質の向上に活かすことを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、職員が毎月、市の窓口等に出向き介護認定更新手続きや利用者の状況について報告している。利用者様等に困難な状況が生じた場合、町の担当者に相談しアドバイスを受け、協力関係を築いている。	職員は、毎月、町の担当窓口や広域連合等を訪問し、事業所の様子を伝えている。随時、困りごと等についても相談している。感染症の流行下においても、情報提供や対応に関するアドバイスを受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を3か月に1回行っている。職員は身体拘束を行わない姿勢でケアに取り組んでいる。	事業所では、3か月に1回、身体拘束に関する勉強会を開催している。職員が交代で講師を務め、意識の共有化を図っている。日ごろの支援のなかでも、職員間で拘束の内容や弊害について話しあい、理解を深めつつ、利用者の尊厳を守るよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については勉強会を行い、参加出来なかった職員には報告書を通して理解してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行ったり、研修会の開催があればなるべく参加して理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項については、一つ一つ納得して頂けるように説明している。改定等の際には文書を作成し、理解して頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時や県外在住でコロナの為に来訪出来ない家族様には、電話連絡等で意見や要望を聞いている。出された意見、要望は職員間で共有し運営に反映している。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。家族等については、来訪時に意見等を聞いたり、2か月に1回、写真や担当者のコメントを添えた便りを送付したりして、要望等の把握に努めている。出された意見等は、職員間で協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見を言いやすい関係作りに努め、朝礼や申し送り等の際、職員から要望を聞き取り、気づき等運営面に反映している。	管理者は、日ごろの支援やミーティング、年1回の個人面談などの機会に、職員からの意見や提案等を聞いている。代表者が事業所に来訪した際に、職員から意見を聞き取る機会もある。出された意見等について、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシートを作成し、職員の目標管理や自己評価を把握し、個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人内外の研修に参加できるようにしているが、現在はコロナ禍の中、外部研修に参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話で他事業所と情報交換を行い、サービス、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にこれまでの経緯を聞かせて頂き、事業所の雰囲気把握して頂けるようお話している。要望等お聞きし、不安解消に向けた関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に事業所が提供できるサービスについて説明を行い、信頼関係を築く努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様がどのような支援を必要とされているかを見極め、できる限り要望に応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接しながら、知らない知識を教えて頂き、共に暮らすことで職員の成長にも繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや2カ月に1回のグループホーム新聞を送付し、日々の暮らしを報告している。利用者様が不安を感じている時は、家族様と電話連絡を行い支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会禁止であるが、利用者様の友人や知人が来訪しやすい環境作り、雰囲気作りを大切にしている。	事業所では、利用者の友人・知人の来訪を受け入れるなど、馴染みの関係継続を支援している。感染症の流行下においては、地域の昔話をしたり、写真を見たりして、馴染みの人や場所への意識を継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が協力して、作品作りをして頂けるような取り組みを行ったり、ホールで一緒に洗濯物を畳んだり、和気あいあいと過ごされている。ユニット間で交流して全員が顔見知りとなるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先が法人の病院を利用されている方が多い為、最近の状況を伺ったりして経過を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日頃の関わりのなかで表情、仕草、行動等から思いや意向等を把握し、本人、本位の支援に努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者に寄りそった支援を心掛けている。一人ひとりの性格や状況を職員間で共有し、日ごろのケアにつなげている。意思の表出が困難な場合は、言葉や表情の変化から、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に面談を行い、情報の聞き取りを行っているが、関わっていく中でこれまでの生活歴が分かり理解を深め、把握するように努めケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、排泄チェック表、ケアチェック表を毎日付けて健康状態を把握している。本人様のペースで一日を過ごすことができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族様の意見を反映した介護計画を作成している。状態変化時は計画を見直している。	事業所では、利用者や家族等の希望や意見等を踏まえた介護計画を作成している。医師や専門科等の意見も反映し、本人が役割や楽しみを持って過ごすことができるよう検討している。定期的なモニタリングや見直しも行き、現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時、申し送りや日誌を確認し情報を共有し、支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2~3回院長の訪問があり、健康チェックを行っている。通院が必要な方で家族様の付き添いができない場合は、職員が付き添い支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、ボランティアや中学生等との交流は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医やかかりつけ医との連携を行い指示、助言を頂いている。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等の希望するかかりつけ医を確認している。専門科を受診する際は、家族等の協力を得ている。協力医療機関と連携し、定期的な訪問診療を受けたり、緊急時の医療体制を整備したりして、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットに1名ずつの准看護師がおり、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化がみられた時は、家族様に報告している。入院治療が必要な場合、情報提供を行い、病院職員との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で利用者様や家族様に重度化や終末期における事業所の方針について説明して同意を得ている。	事業所では、契約時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期の指針について説明している。本人の心身状況の変化に応じて、意向を確認している。医療関係者と連携し、意向にそった支援に向けて、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、確実に対応できるように周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署等の協力を得て防災訓練を実施している。防災マニュアルを作成し、備蓄品を用意したりして災害時に備えている。	事業所では、年2回、消防署や保安協会等の協力を得て、避難訓練を実施している。日中・夜間の火災や地震、水害等を想定し、避難経路の確認や安全な移動について話しあっている。備蓄品も整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを傷つけないように、言葉かけ等に気を付けている。排泄、入浴介助の際はプライバシーの確保に努めている。	職員は、利用者一人ひとりに寄りそった支援に取り組んでいる。本人の思いや生き方を大切に捉え、自己決定ができる機会を設けつつ、プライバシーを損ねることのないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から信頼関係を深める事で、御本人様の思いが自然に引き出せるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを見極め、コミュニケーションを取りながら、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備は、希望を聞いて一緒に準備を行っている。定期的に訪問美容師が来訪されヘアカットや希望で白髪染め等をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に一緒に食事の準備を手伝って頂き、楽しく食事できるように支援している。個人の身体状態に応じた食事形態(刻み食、糖尿病食、心臓食等)を提供している。	事業所では、利用者が自分で食べることを大切に捉え、刻み食等食事形態を変えるなど、一人ひとりの状況にあわせた食事を提供している。また、おやつを手作りしたり、畑で野菜や果物を収穫したりして、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量を記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、準備、誘導等を行っている。義歯は、毎日夕食後に洗浄液に浸けて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を作成し、排泄パターンを把握しトイレにて排泄できるように支援している。歩行練習や足踏運動等排泄に繋げる取り組みを行っている。	職員は、チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導を行っている。夜間は、おむつやポータブルトイレを活用し、負担を感じず排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にヨーグルトを食べて頂き、便秘予防を図っている。また青汁、氷水等を飲んで頂き、腹部マッサージや歩行運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりの体調や意向に沿った入浴支援に取り組んでいる。入浴拒否がある場合、声掛けや入浴順番を変更するなどしている。	事業所では、週2回は入浴できるよう支援している。入浴拒否の場合は、声かけのタイミングを変えるなどして、気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない原因を把握することで不安を取り除き、安心して眠れるように支援している。体操や歩行練習を行い、日中の活動量を増やしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から処方薬についての説明を受け、個人カルテに説明書を綴っている。服薬時、利用者様が飲み込まれるまでの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯畳み等をお願いし、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行下においても、利用者の希望に応じて、個別にドライブを行う等、外気を感じることができるように工夫している。	事業所では、日ごろから、利用者と一緒に事業所周辺の散歩に出かけている。感染症の流行下においては、個別にドライブに出かけて、馴染みのある場所を眺めたり、季節の花を眺めたりするなど、外気や季節を感じることができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			北ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、原則的には金銭は持ち込まないようにして頂き、御家族から預り金としてお金を預かっている。安心感を得られる方に対しては、小額であれば持ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が、電話を掛けたい時や掛かった時は支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に行事の作品や写真を飾ったり、四季を感じるができるようにしている。感染症等の予防の為、定期的に換気を行っている。	共用空間は明るく、清潔を保っている。壁面には、職員のアイデアをもとに、利用者と共に制作した作品を飾り、季節感を感じることができるようにしている。定期的に、消毒や換気などを行うことで、感染症対策にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファを置き、少人数で談話できるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に作品や写真を貼り気持ちの安定を図っている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や電化製品を持ち込んでもらっている。写真等も飾り、一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーで今日の月日が分かるようにしている。ご自分の居室が分からない方には名前や目印を掲示し、トイレも分かりやすく表示している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、事務所、各ホールに掲示し、朝礼時に唱和している。全職員で共有し、ケアの向上や日々の実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のスーパー等で利用者様の希望の日用品や食品等を職員が直接購入している。感染症(コロナ等)の流行下においても、馴染みの美容師に来訪して頂き、訪問理髪をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や施設見学に来られた方に、事業所の取り組みや認知症ケアについて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を民生委員や地域包括支援センターの職員等の出席を得て開催しているが、コロナ感染症の流行に伴い書面での会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、職員が毎月、市の窓口等に出向き介護認定更新手続きや利用者の状況について報告している。利用者様等に困難な状況が生じた場合、町の担当者に相談しアドバイスを受け、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を3カ月に1回行っている。職員は身体拘束を行わない姿勢でケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については勉強会を行い、参加出来なかった職員には報告書を通して理解してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で勉強会を行ったり、研修会の開催があればなるべく参加して理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項については、一つ一つ納得して頂けるように説明している。改定等の際には文書を作成し、理解して頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時や県外在住でコロナの為来訪出来ない家族様には、電話連絡等で意見や要望を聞いている。出された意見、要望は職員間で共有し運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は意見を言いやすい関係作りに努め、朝礼や申し送り等の際、職員から要望を聞き取り、気付き等運営面に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシートを作成し、職員の目標管理や自己評価を把握し、個々の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に法人内外の研修に参加できるようにしているが、現在はコロナ禍の中、外部研修に参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話で他事業所と情報交換を行い、サービス、ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時にこれまでの経緯を聞かせて頂き、事業所の雰囲気把握して頂けるようお話している。要望等お聞きし、不安解消に向けた関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様に事業所が提供できるサービスについて説明を行い、信頼関係を築く努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様がどのような支援を必要とされているかを見極め、できる限り要望に応えられるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として接しながら、知らない知識を教えて頂き、共に暮らすことで職員の成長にも繋がっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや2カ月に1回のグループホーム新聞を送付し、日々の暮らしを報告している。利用者様が不安を感じている時は、家族様と電話連絡を行い支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会禁止であるが、利用者様の友人や知人が来訪しやすい環境作り、雰囲気作りを大切にしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごして頂ける時間が増えるように、レクレーションや体操等を行い支援している。トラブルなく過ごせるように席に気を配っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先が法人の病院を利用されている方が多い為、最近の状況を伺ったりして経過を把握している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との日頃の関わりのなかで表情、仕草、行動等から思いや意向等を把握し、本人、本位の支援に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に面談を行い、情報の聞き取りを行っているが、関わっていく中でこれまでの生活歴が分かり理解を深め、把握するように努めケアに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、排泄チェック表、ケアチェック表を毎日付けて健康状態を把握している。本人様のペースで一日を過ごすことができるよう支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族様の意見を反映した介護計画を作成している。状態変化時は計画を見直している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時、申し送りや日誌を確認し情報を共有し、支援を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週2~3回院長の訪問があり、健康チェックを行っている。通院が必要な方で家族様の付き添いができない場合は、職員が付き添い支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、ボランティアや中学生等との交流は行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医やかかりつけ医との連携を行い指示、助言を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットに1名ずつの准看護師がおり、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化がみられた時は、家族様に報告している。入院治療が必要な場合、情報提供を行い、病院職員との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で利用者様や家族様に重度化や終末期における事業所の方針について説明して同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、確実に対応できるように周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署等の協力を得て防災訓練を実施している。防災マニュアルを作成し、備蓄品を用意したりして災害時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドを傷つけないように、言葉かけ等に気を付けている。排泄、入浴介助の際はプライバシーの確保に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を心掛け傾聴することで、利用者が自分の意志で決定出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢の方が多く、体調に合わせてベッドで休まれたりしている。それぞれの方が望まれる過ごし方に沿えるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備は、希望を聞いて一緒に準備を行っている。定期的に訪問美容師が来訪されヘアカットや希望で白髪染め等をされている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方と一緒に食事の準備を手伝って頂き、楽しく食事できるように支援している。個人の身体状態に応じた食事形態(刻み食、糖尿病食、心臓食等)を提供している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量をチェックし状態を把握している。食事量の少ない時は、栄養補助食品等を利用したりして摂取できるようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、準備、誘導等を行っている。義歯は、毎日夕食後に洗浄液に浸けて清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			南ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインやパターンを把握し、日中はできる限りトイレで排泄が行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を服用されている利用者も多く、日頃から予防に努めている。毎朝ヨーグルトを食べて頂き、こまめな水分補給で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりの体調や意向に沿った入浴支援に取り組んでいる。入浴拒否がある場合、声掛けや入浴順番を変更するなどしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に応じて居室で休息できるように支援しているが、昼夜逆転しないような工夫に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から処方薬についての説明を受け、個人カルテに説明書を綴っている。服薬時、利用者様が飲み込まれるまでの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物干し、畳み等の作業を利用者様にあったペースで楽しく会話しながらして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行下においても、利用者の希望に応じて、個別にドライブを行う等、外気を感じることができるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	南ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		トラブル防止の為、原則的には金銭は持ち込まないようにして頂き、御家族から預り金としてお金を預かっている。安心感を得られる方に対しては、小額であれば持つてもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		携帯電話を持ち込んで掛けている方や希望があれば電話を掛ける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		廊下やホールには四季が感じられるような飾りつけを心掛けている。感染症等の予防の為、定期的に換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		気の合う利用者同士が居室を行き来できる支援を実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		利用者同士で居室で会話を楽しむこともあり、居心地よく過ごせることができるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		カレンダーで今日の月日が分かるようにしている。ご自分の居室が分からない方には名前や目印を掲示し、トイレも分かりやすく表示している。		